

社会科学習指導案

日 時 平成29年2月14日（火）3校時
児 童 3年生
授業者
授業場

1 単元名「変わるわたしたちの暮らし～昔の道具と暮らし～」

2 単元の目標

古くから残る道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子について興味・関心を持ち、昔から現在に至る道具の変化について具体的な資料や地域の人々へのインタビューを活用して調べたり年表に表したりして、わかったことを比較したり総合したりして考えることで、暮らしの変化と人々の思いとの関連を考え、適切に表現することができる。

3 単元について

(1) 単元観

小学校学習指導要領解説社会編の第3学年及び第4学年の内容（5）アを扱った単元であり、人々の生活の変化や人々の思いについて理解し、今の生活がこれまでの生活の積み重ねに支えられていることをとらえられるようにすることをねらいとしている。昔から現在に至る道具の変化についての実物や写真等の具体的な資料や祖父母や父母それぞれの世代の人々へのインタビューを活用したり年表に表したりすることを通して、暮らしに関わる道具が人々の思いに合わせて変化してきたことや、今も昔も人々の思いや工夫に合わせた暮らしのよさがあることを具体的に考えることができるようにする。

(2) 目指す児童・生徒像

昔の暮らしから現在の自分たちの暮らしへの変化に関心を持ち、洗濯板と火鉢の体験を通して学習計画を立て、具体的な資料やインタビューをもとに調べる学習を通して、暮らしに関わる道具とその道具を使っていた時の暮らしの様子について理解し、暮らしに関わる道具の変化の意味やそれぞれの時代の暮らしのよさについて、比較したり、総合したりして考え、理解したことを表現することができる姿。

(3) 指導観

以上を踏まえ、本単元では単元の導入時に洗濯板とたらいを用いた洗濯や火鉢を用いた採暖の体験的な学習を位置付けることで、古い道具を使う大変さやその道具を使っていたころの人々の暮らしを具体的に想像し、人々の暮らしに関わる道具への思いに着目して捉えていこうとする姿を引き出していく。

また、調べ学習の際には、道具の使い方ごと（衣・食・住・遊び）の4つグループに分けて行うことで、同じ使われ方の道具が少しずつ改善されながら変化してきたことを具体的に調べる姿を引き出すとともに、交流の際には4つのグループが混在するジグソーグループの編成にすることで暮らし様子全体の変化を整理する姿を引き出していく。

本單元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

小学校社会科における「見方・考え方」は、社会事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることと示されている。

本研究では、「対話的な学び」を、社会的事象に対する考察・構想における教師と児童や児童同士の対話に焦点化し、授業を展開していくよう単元を構成した。本單元では、人々の暮らしに関わる道具や、人々の生活の様子、暮らしに対する人々の思いや工夫について、時期や時間の経過、事象相互の関係に着目して捉え、比較したり、総合したりする中で、暮らしに関わる道具の変化の意味と、その中でも受け継がれているものがある意味を考察することができるようにする。

そのための手立てとして、暮らしに関わる道具について調べたことをカード化し年表を用いて整理したり、インタビューで聞き取った人々の思いをKJ法的手法を用いて整理したりした後に、教師が比較や総合を促していくことで、暮らし全体の変化を考えることができるようにする。

さらに、児童の認識に新たな視点を与える資料提示を行うことで、交流の必然性を生むとともに、交流を焦点化して行うことができるようにする。

4 評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解
ア 地域の人々の生活の変化に関心を持ち、意欲的に調べている。	ア 地域の人々の生活の変化について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 イ 地域の人々の生活の今昔の違いや変化、人々の生活のよさを考え表現している。	ア 資料やインタビューを活用して、地域の人々の生活の変化について必要な情報を集め、読み取っている。 イ 調べたことを年表にまとめている。	ア 古くからの暮らしに関わる道具、それらを使っていた頃の暮らしの様子を理解している。 イ 地域の人々の生活の変化が人々の願いによるものであることを理解している。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p>昔の生活の絵と現在の生活の写真を提示し、昔と現在では生活の様子が大きく異なることに気付くことができるようにする。</p> <p>昔の生活と今の生活の変化への自分なりの考えを持つために、具体的な体験をさせ、予想を立てることで視点を明確にして課題追究しようとする姿を引き出していく。</p> <p>どのように生活に使う道具は変化してきたのかな？</p> <p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問を整理したりする。 ・昔のものは〇〇なところが今とちがっていた。 ・どうしてこんな風に変化してきたのかな。</p> <p>なぜ生活に使う道具は変化してきたのかな？</p> <p>学び方や考えの変容について振り返る。 ・めんどろだったものが簡単に使いやすく変化してきたことがわかった。 ・インタビューしたことを交流したら、今まで道具がどんどん便利になってきたことがわかった。</p> <p>なぜ今でも昔の道具を使っているのだろうか？</p> <p>学び方や考えの変容について振り返る。 ・昔は大変なことも多かったけど、その分良いところもあったんだな。 ・昔の良いところを取り入れながら工夫して今の生活があることがわかった。</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 100px; top: 400px;">人々の暮らしはどのように変化してきたのだろうか。</p>	<p>1 時間目</p> <p>2枚の絵を比較し、今と昔の生活の違いを知り、学習課題を立てる。 関ア</p> <p>2・3 時間目</p> <p>洗濯板と火鉢の体験を通して調べる視点を明確化し、単元を通じた学習の見通しを持つ。 思ア</p> <p>4・5 時間目</p> <p>資料をもとに調べ学習を行い、時代によって、暮らしにかかわる道具が変化していること捉える。 技ア</p> <p>6・7 時間目</p> <p>インタビューをもとに調べ学習を行い、道具の変化によって人々の生活が変化していたことを捉える。 技ア</p> <p>8 時間目</p> <p>自分たちの調べた道具とそれにかかわる生活の変化を年表にまとめ、人々の思いに合わせて道具が変化してきたことを考える。 知ア 技イ</p> <p>9 時間目（本時）</p> <p>古い道具が現在も使われていることを知り、昔の生活のよさや工夫を総合して考えまとめる。 思イ</p> <p>10 時間目</p> <p>昔から人の思いに合わせて道具と生活が変化してきたことや、今も受け継がれていることがあることを考え、自分の生活を見直し、ポスターにまとめる。 知イ</p>	<p>個々の事実をまとめた昔の道具カードを年表に整理させ、年表のを比較促すことで、時期や時間による変化をとらえる姿を引き出す。 I</p> <p>「なぜ昔の道具のままではだめだったのか」という発問をすることで人々の思いと道具の変化が関連していることを考える姿を引き出す。 II</p> <p>現在でも使用されている昔の道具について資料を提示し、昔の生活や道具の中のよさがあることに気付くようにする。 II</p> <p>KJ法的手法を用いて昔の道具のよさをまとめさせ、その比較を促すことで、昔の生活のよさを総合して考えことができるようにする。 I</p> <p>昔の道具のよさを取り入れて作られている新しい道具について資料を提示することで今の生活との関連を考える姿を引き出す。 II</p>

6 本時について（9/10時間目）

(1) 本時の目標

地域の人々の暮らしに関わる道具のよさを、KJ法的手法を用いて整理し、昔の生活のよさを総合して考えることで、今の生活が昔のよさを生かしながら作られていることを考えることができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては主に研究の視点ⅠとⅡについて手立てを講じていく。

前時までの児童はインタビューから聞き取ったことをもとに、道具が人々の思いに合わせて便利になってきたことを理解している。

本時の活動では、共有化された課題意識に対して、昔の道具のよさをK J法的手法を用いて整理させ、グループごとにまとめられたものの比較を促すことで、昔の暮らし全体のよさを総合して考えることができるようにする。Ⅰ

また、本時の導入で現在も使われている昔の道具の資料提示、本時の後段でよさを取り入れながら新しく作り出されている道具の資料提示をすることで、昔の道具のならではのよさや昔のよさを取り入れた現在の生活のよさがあることに気付くことができるようにする。Ⅱ

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1. 前時までの活動を想起し、現在も使われている道具があることを知ることで、本時の学習に対する見通しを持つ。</p> <p>・昔からずっと使われているものもあるね。</p> <p>・きつと昔のものにしかないよさがあるからじゃないかな。</p>	<p>・前時までの昔の道具が人々の思いに合わせて変化してきたことを想起させる。</p> <p>□現在も使われている昔の道具の資料を提示することで、昔の道具ならではのよさがあることに気付かせ、本時の見通しをもつことができるようにする。Ⅱ</p>	
<p>なぜ今でも昔の道具を使っているのだろうか？</p>		
<p>2. 調べ学習のグループごとに、インタビューで聞き取ったことを再吟味し、昔のよさを捉える。</p> <p>・これも昔の道具のよさだね。</p> <p>・〇〇さんは今よりも△△だったと言っていたね。</p>	<p>・前時までにまとめられている昔の人々の思いカードからよさと捉えられるものを抜き出すことを確認する。</p>	<p>▲よさを見付けることが難しいグループには、直接的にいいという表現にならなくても、よさだと捉えられるものについて取り出すよう促す。</p>
<p>3. ジグソーのグループごとに、昔の道具のよさをK J法的手法を用いて交流し、そのよさが生まれる原因を視点にまとめていく。</p> <p>・電気を使わないから、持ち運べたり、エコになったりしたよ。</p> <p>・手間をかけた分、おいしかったり汚れがよく落ちたよ。</p>	<p>○K J法的手法の手順を確認しながら、活動させる。</p> <p>○グルーピングする際によさが表れる「原因」を視点としてまとめていくように指示する。</p>	
<p>4. お互いにまとめたものを発表し合い、比較することで昔の生活のよさを総合して考えることができる。</p> <p>・昔は不便さをよさにつなげる工夫があったんだね。</p>	<p>○グルーピングした視点の比較を促し、それぞれのグループに共通した点をまとめていくことで、昔の暮らしのよさを総合して考えることができるようにする。Ⅰ</p>	<p>▲グルーピングが進まないグループには、「なぜ〇〇なの？」と問うことで、原因を自覚化させていく。</p>
<p>5. 昔の生活のよさを生かして新たに作り出されているものについて知り、自分たちの生活と昔の生活との関連を考えることができる。</p> <p>・昔のいいところを取り入れながら、今ものを作っているんだ。</p>	<p>□よさを取り入れながら新しく作り出されている道具の資料を提示することで、昔のよさを取り入れた、現在の生活のよさがあることに気付くことができるようにする。Ⅱ</p>	<p>【発言】</p>
<p>6. 本時の自分の学び方や考え方の変容を振り返りノートに記述する。</p> <p>・昔のいいところが今の生活にもつながっていることがわかった。</p>	<p>・振り返りの視点を明確化し、本時の自分の学び方や考え方の変容を内面化できるようにする。Ⅲ</p>	<p>【ノートの記述】</p>